



者なり爾曹の神の田舎の室なり 神の我に賜ひて恩に循ひて我賢き工師の如く既に基礎を置たり今ほかの  
 人の上に建ひかに其上に建べき乎かの 慎んで爲べし する置給ひし基礎の外に誰れも基礎を置くこと  
 能ざれば地への基礎の即ちイエスキリストなり もし人この基礎の上に金銀寶石木脚木稿を以て建たば  
 各人の工の明かならん夫日これを顯す可ればなり此の火にて顯れん其火おのの工の如何を試ひべ  
 し若うの建る所の工たもたた實を得 若うの工やかれな六損を受されば火より燃出る如く終ら  
 ぬれん 爾曹の神の殿にして神の靈なんちらの中に在ることを知ざる手も 人も神の殿を毀たば神かれ  
 を毀たん蓋神の殿の聖ものなれば也この殿の即ち爾曹なり 誰も自ら欺く勿れ若なんちらの中に此世を  
 於て智慧ありて意ふ者あらずば智者とならん爲に愚かなるべし 蓋この世の智慧の神の前に愚かなるべ  
 り録して云く神の智者を其かづからの詭計因て拘ふ また云く主の智者の思念を慮きものと知たまふ  
 然らば誰も人に誇る勿れ萬物の爾曹の物なり 或ハバロ或ハアポロ或ハゲバ或ハ世界あるハ生ある  
 ハ死あるハ今もの或ハ後のものはみな爾曹の属なり 爾曹ハキリストの属キリストハ神の属なり  
 人宜く我曹をキリストの從者の如く神の奧義を司る家宰の如く意ふべし 又この世に在る家  
 宰に求る所の其忠信ならんこと地 ねれ爾曹も許られ或ハ人に許らるること尤も輕事となす我も自己  
 を許す 我かづから省るも過るを覺す然ども此に因て謙とせられ我を語る者ハ士なり 然ハ主の來  
 らんとすまで時いまだ至らざる間ハ審判する勿れ士ハ幽暗に於て情を照し心の計謀を顯さん其時  
 どの 神より譽を得べし 兄弟よ 我なんちらの爲に此等の事を我とアポロも此へたり此ハ我曹の事に  
 より爾曹をして錄されし所に過て人と思議へからざる事を學んせ彼も從えんとて之に通ひ各誇ることな  
 かり 二六二 二六三 二六四 二六五 二六六 二六七 二六八 二六九 二七〇 二七一 二七二 二七三 二七四 二七五 二七六 二七七 二七八 二七九 二八〇 二八一 二八二 二八三 二八四 二八五 二八六 二八七 二八八 二八九 二九〇 二九一 二九二 二九三 二九四 二九五 二九六 二九七 二九八 二九九 三〇〇 三〇一 三〇二 三〇三 三〇四 三〇五 三〇六 三〇七 三〇八 三〇九 三一〇 三一〇

らふめな爲なり 爾をして人に異ならしむる者ハ誰れ爾ハ何の受領する物を有か若く之れを受領ハ何う受  
 領さる如く誇り 爾曹すてに飽なんちら既に富り爾曹われど儂ならずして王たり我實に爾曹が王たらん  
 ことを願ふ蓋われも爾曹と偕に王たらんが爲なり われ意ふに神ハ我曹使徒を死に定られし者の如く未  
 の者として顯し給へり蓋われらハ宇宙のもの即ち天の使ふよび人々に觀玩せられたれ也 我曹ハキ  
 リストの爲に愚なる者となり爾曹ハキリストに在て知さざる者となり我曹ハ弱く爾曹ハ強く爾曹ハ貴く我  
 曹ハ賤し 今の時に至るまで我曹ハ倒れた爾曹ハ倒れぬとて我曹ハ強き者となり我曹ハ弱き者となり我  
 曹ハ辱らるるどさきり恥し辱らるるどさきり忍 謂らるるどさきり我曹今に至るまで世の汚穢をた  
 ら萬の物の塵垢の如し 我なんちらを愧しめん爲に之を書に非ず反て我が愛する兒女の如く爾曹を傲めん  
 とて地 爾曹キリストに在て縱ハ以師ハ一萬ありども父ハ多くあることなし蓋われキリストイエスに在て  
 福を以て爾曹を生んたり 是故に我なんちらが我に傲んことを勸るなり 此に緣て我が愛する主に在て  
 思なるヲモテ我なんちらに遣せり我ハキリストに在て教ふるごとく爾曹に教へて之に我曹の模範を爾  
 曹に記憶さすべし 爾曹の中われを爾曹に至らすとして自ら誇る者あり 然ども主の心に適て我速かに  
 爾曹に至り誇る者の其言に非ず其能を知んてす するの神國の言に在に非ず能に在に在なり 爾曹不にを願  
 へや答を以て我なんちらに至ることを願ふ乎ばた愛と柔和の心を以て至ることを願ふ手  
 と聞ゆ ならんから誇る事を行ひし者の爾曹の中より顯けられんことを願て 爾曹の主人を有  
 爾曹の中居すも雖も鐵の居り我をるが如く既ハ之を行ひし者の罪を定たり 即ち我曹の主イエスキリ

二八二 二八三 二八四 二八五 二八六 二八七 二八八 二八九 二九〇 二九一 二九二 二九三 二九四 二九五 二九六 二九七 二九八 二九九 三〇〇 三〇一 三〇二 三〇三 三〇四 三〇五 三〇六 三〇七 三〇八 三〇九 三一〇 三一〇

と聞ゆ ならんから誇る事を行ひし者の爾曹の中より顯けられんことを願て 爾曹の主人を有  
 爾曹の中居すも雖も鐵の居り我をるが如く既ハ之を行ひし者の罪を定たり 即ち我曹の主イエスキリ  
 へや答を以て我なんちらに至ることを願ふ乎ばた愛と柔和の心を以て至ることを願ふ手  
 爾曹に至り誇る者の其言に非ず其能を知んてす するの神國の言に在に非ず能に在に在なり 爾曹不にを願  
 曹に記憶さすべし 爾曹の中われを爾曹に至らすとして自ら誇る者あり 然ども主の心に適て我速かに  
 思なるヲモテ我なんちらに遣せり我ハキリストに在て教ふるごとく爾曹に教へて之に我曹の模範を爾  
 福を以て爾曹を生んたり 是故に我なんちらが我に傲んことを勸るなり 此に緣て我が愛する主に在て  
 とて地 爾曹キリストに在て縱ハ以師ハ一萬ありども父ハ多くあることなし蓋われキリストイエスに在て  
 萬の物の塵垢の如し 我なんちらを愧しめん爲に之を書に非ず反て我が愛する兒女の如く爾曹を傲めん  
 なし辱らるるどさきり恥し辱らるるどさきり忍 謂らるるどさきり我曹今に至るまで世の汚穢をた  
 今に辱らるるどさきり恥し辱らるるどさきり忍 謂らるるどさきり我曹今に至るまで世の汚穢をた  
 今に辱らるるどさきり恥し辱らるるどさきり忍 謂らるるどさきり我曹今に至るまで世の汚穢をた

下の名として、爾曹の集らんとし、我靈も信に在て、我體の主イエスキリストに託かくの如き者をサレ  
トに交じ、其肉體を滅し、其靈をして主イエスの日に救を得えめんぞ定たるなり。爾曹の語るに宜ろし、  
サ少許の醜陋の全圖をみな發すを知らざる乎。爾曹の醜陋なきが如き者なれば、舊き醜陋を除きて新しき  
醜陋となるべし。夫れらの逾越すな之キリストの既に宰れ給へり。然るに、爾曹が醜陋を用はず、また惡毒  
と暴很の醜陋を用す、眞實と至誠なる無醜陋を用て、動を守るべし。われ爾曹に姦淫を行入者と偸む交  
る勿れと既わ書遣れり。然るに、此世の淫を行ふ者また、其飲飲者また、其飲飲者また、其飲飲者また、其飲飲者また、  
を全く禁するに非ず。若しからば、爾曹の世を離れざる可らず。我かんとらに書遣し、兄弟弟と稱ふる者も  
し、淫を行ひ、又ハ貪婪また、汚濁また、汚濁また、汚濁また、汚濁また、汚濁また、汚濁また、汚濁また、汚濁また、  
者と共に食することたに爲ざらん、とて、外に有る者を拘て、何ん我に與らん。爾曹が、拘く所ハ内  
に、外に有る者、拘て、何ん我に與らん。爾曹が、拘く所ハ内  
の者に非ずや。外に有る者、拘て、何ん我に與らん。爾曹が、拘く所ハ内  
爾曹のうら、互に事あるとき、聖徒の前に証をせ、取て、義からざる者の前に証をせ、とする者  
ある乎。なんから、聖徒の世を鞫んとするを知らざらんや。世もし、爾曹に鞫る、とならば、爾曹至小き事を鞫に足  
ざる者ならん乎。爾曹われら、夫の世を鞫んとするを知らざらんや。此世の事をや、是故に、爾曹も、此  
世の事を鞫んとせば、教會の中にて、身穢者を擯、御の座に坐しめよ。我れん、なごらむを愧しめんと、  
爾曹の中に、其兄弟の間の事を鞫す得る智者一人も、なからん乎。然るに、兄弟弟と兄弟相説、且この事を不信者  
の前にて、爲り。爾曹た、互に相説るに、よらば、爾曹のうら、誠に過あり。爾曹、何ん此、より、禁ず、不義を受ざるや  
何ん此、より、禁ず、不義を受ざる乎。噫、なんごらむを、欺をなす兄弟にも、亦これを行ひ、なんごらむを、義か

コリ 一六二  
一六三  
一六四  
一六五  
一六六  
一六七  
一六八  
一六九  
一七〇  
一七一  
一七二  
一七三  
一七四  
一七五  
一七六  
一七七  
一七八  
一七九  
一八〇  
一八一  
一八二  
一八三  
一八四  
一八五  
一八六  
一八七  
一八八  
一八九  
一九〇  
一九一  
一九二  
一九三  
一九四  
一九五  
一九六  
一九七  
一九八  
一九九  
二〇〇  
二〇一  
二〇二  
二〇三  
二〇四  
二〇五  
二〇六  
二〇七  
二〇八  
二〇九  
二一〇  
二一一  
二一二  
二一三  
二一四  
二一五  
二一六  
二一七  
二一八  
二一九  
二二〇  
二二一  
二二二  
二二三  
二二四  
二二五  
二二六  
二二七  
二二八  
二二九  
二三〇  
二三一  
二三二  
二三三  
二三四  
二三五  
二三六  
二三七  
二三八  
二三九  
二四〇  
二四一  
二四二  
二四三  
二四四  
二四五  
二四六  
二四七  
二四八  
二四九  
二五〇

らざる者の神の國を、爾曹を、爾曹を、爾曹を、爾曹を、爾曹を、爾曹を、爾曹を、爾曹を、爾曹を、爾曹を、  
姦淫をなし、又ハ男娼となり、又ハ男色を行ひ、又ハ盜竊また、汚濁また、汚濁また、汚濁また、汚濁また、汚濁また、  
る凡の物、われに可らざる、亦、然るに、我の、一をも、我が主と、食ハ腹のた、腹のた、腹のた、腹のた、腹のた、  
ハ此も、彼も、滅すべし、身ハ淫を行ふために、非ず、主の爲なり。身ハ淫を行ふために、非ず、主の爲なり。  
又、爾曹の能を以て、我體をも、滅らすべし。爾曹の身ハキリストの腹なるを、知らざるか。我キリストの腹なるを、  
の腹となして、可らんと可らざる也。爾後に、合ものハ、彼と一の體となるを、知らざるか。蓋二人のものハ、一と、  
るべし。と云給ひたれど、主合ものハ、一と、一と、一と、一と、一と、一と、一と、一と、一と、一と、一と、一と、  
あり、然るに、淫を行ふ者、ハ己の身を、犯すなり。爾曹の身ハ、爾曹が、神より受たる、爾曹の、裏も、ある、聖靈の、  
なる。爾曹身ハ、於ても、靈魂、も、於ても、神の、榮を、顯すべし。爾曹身ハ、於ても、靈魂、も、於ても、神の、榮を、  
なんごらむ、我、書遣し、事ハ、ついで、ハ、男の、女、近ざるを、善とす。然るに、淫行を、免る、く、爲人、  
の、其妻を、もち、女、も、各、々の、夫を、有べし。夫ハ、其外を、妻、おなすべし。妻ハ、また、夫、おなすべし。  
を、主と、する。これを得ず、夫、これを、主とする。此の如く、夫も、自ら、其身を、主とする。此の如く、  
拒んか、然るに、互ハ、本意を、合せて、誓ハ、神の、爲、別、別、と、し、後、また、其、合、べし、は、サレ、爾曹の、情の、禁、  
お乘して、爾曹を、誘え、ざらん、爲なり。然るに、我これを、言ハ、命する、お非ず、爾曹なり。我ハ、衆人の、我、ごとく、爲、  
〜一六〇  
〜一六一  
〜一六二  
〜一六三  
〜一六四  
〜一六五  
〜一六六  
〜一六七  
〜一六八  
〜一六九  
〜一七〇  
〜一七一  
〜一七二  
〜一七三  
〜一七四  
〜一七五  
〜一七六  
〜一七七  
〜一七八  
〜一七九  
〜一八〇  
〜一八一  
〜一八二  
〜一八三  
〜一八四  
〜一八五  
〜一八六  
〜一八七  
〜一八八  
〜一八九  
〜一九〇  
〜一九一  
〜一九二  
〜一九三  
〜一九四  
〜一九五  
〜一九六  
〜一九七  
〜一九八  
〜一九九  
〜二〇〇  
〜二〇一  
〜二〇二  
〜二〇三  
〜二〇四  
〜二〇五  
〜二〇六  
〜二〇七  
〜二〇八  
〜二〇九  
〜二一〇

コリ 一六一  
一六二  
一六三  
一六四  
一六五  
一六六  
一六七  
一六八  
一六九  
一七〇  
一七一  
一七二  
一七三  
一七四  
一七五  
一七六  
一七七  
一七八  
一七九  
一八〇  
一八一  
一八二  
一八三  
一八四  
一八五  
一八六  
一八七  
一八八  
一八九  
一九〇  
一九一  
一九二  
一九三  
一九四  
一九五  
一九六  
一九七  
一九八  
一九九  
二〇〇  
二〇一  
二〇二  
二〇三  
二〇四  
二〇五  
二〇六  
二〇七  
二〇八  
二〇九  
二一〇

11 とも願ふ然と各々神より己の賜を受たり此の如く彼に彼の如し我いまた婚姻せざる者ふよび澄婦  
 12 小云ん若わが如くして居バ彼等も妻なり若みづから制ることを能はずバ婚姻するも可なり婚姻するの胸  
 13 の煉るよりも愈れだ也われ婚姻せし者も必ず妻の命を去べからずうの外人も我に  
 14 若わからし事わらば嫁す居か或い夫と相ふすべし夫もまた妻を去べからずうの外人も我に  
 15 をいふ主の言も非ず若し兄弟不信なる妻を有るとき妻どもも居んことを願ふ之を去なかれまた婦不  
 16 信なる夫を有るとき夫どもも居んことを願ふ之を去なかりん不信なる夫も妻も去り不信か  
 17 る妻い夫も由て潔なれとなり然らずバ爾曹の子女も潔ならず然と今ハ潔き者なり不信者みづから離去バ其  
 18 離るく委任せよ此の如き事わらば兄弟あるひハ姉妹つなぐる所か神の我儕を召給へるハ我儕を離し  
 19 居しめん爲あり妻と爾いかに夫を救ふことを得や否かを知ん夫も爾いかに妻を救ふことを得や否やを  
 20 知ん然と神の各人に預する所を主の各人を召してに循ひて此の如く行ふべし我すべての教會に  
 21 定たるも此の如し割禮ありて召れたる者ハ割禮を廢る勿れ割禮なくして召れたる者ハ割禮を受る勿れ  
 22 割禮を受るも何の得となく割禮を受ざるも何の得となく何の得となく割禮の誠を守るにわり各人  
 23 の召れし時に在し所の分に止るべしなんち奴隷かて召れなバ思煩ふ勿き然と若し釋ざることを得  
 24 ば寧ろ之を受べし召れて主なる奴隷の主につける自主なる者なり此の如く召れし自主の者ハキリス  
 25 トの奴隷なり爾曹の價をもて買れたる者なり人の奴隷となる勿き兄弟よ各々召れし時に在し所の分  
 26 に止りて神と俗に居べし○處女の事あつてハ我いまた主の命を受す然と我主の執權を棄りて無義な  
 27 る者と爲たれバ我が意を通べし今の災に因て我婚姻せざるを善とす此の如くなるハ人に善なんち妻  
 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27

1 に繋る者なるか然らバ釋つことを求め勿き爾妻の繋なき者あるか然らバ妻を求め勿れ爾も繋るとも  
 2 罪を犯すに非ず處女もも嫁するとも罪を犯すも非ず然と此の如き者ハこの身難お遣ハ我爾曹をして煩  
 3 じるに望み兄弟よ我これと言ん今より後の時ハ通れり蓋妻を有る者ハ有ざるが如く哭ものハ哭ぎ  
 4 るが如く喜ぶ者ハ喜ぶが如く買ものハ有ざるが如くこの世を用る者ハ用ざるが如くすべき爲なり  
 5 夫の世は形骸ハ過逝あり我んちの思煩とせらんとて願ハ婚姻せざる者ハ如何して主を悦ませ  
 6 んと主の事を思煩ハ婚姻せし者ハ如何して妻を悦させんと世の事を思煩公なり妻と有る者と處女  
 7 たる者との別あり嫁せざる者ハ身も靈も潔からんため主の事を思煩ハ嫁せし者ハ如何に夫を悦させんと  
 8 世の事を思煩公なり我之を言ハ爾曹を益せ人爲なり爾曹に絆を置んとするに非ず惟爾曹をして理に  
 9 合せ紛擾なく熊羆に主事しめんとして也人も其童女に對して已が行ふこと理に合すと感ふとき童女  
 10 期過かつ已ことを得ざる事わらバ其意に任すべし此ハ罪を犯すに非ず彼等も婚姻せざるべし然と人も  
 11 し其心を剛毅ハ巴を得ざることもなく又おが隨意お爲んことを得ての童女を留置んと心の中に定なバ  
 12 然するハ善ことなり此の如かハ嫁せざる者の行ハ善されど嫁せさせざる者の行ハ更ハ善夫生る  
 13 間ハ妻法お繋るくなり然と夫もし死バ隨意に嫁する事を許さる惟主にある者おのみ適べし然と我おも  
 14 ぶに婦のまゝ止りかバ殊ハ福あり我また神の靈も感たりと意ふ  
 15 偶像に獻し物お就てハ我儕みな知識あることをしる知識ハ人を騙しむ然と愛ハ徳を建るもの也  
 16 若みづから能ものを知を意ふ者ハ未だ其知べきほどをも知ざる者なり人もし神を愛せば神も我れ  
 17 たる也偶像に獻し物を食するも就てハ我儕偶像の世も無ものなるを知なれた獨の神の外に神なきを知  
 11 12 13 14 15 16 17

11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62 63 64 65 66 67 68 69 70 71 72 73 74 75 76 77 78 79 80 81 82 83 84 85 86 87 88 89 90 91 92 93 94 95 96 97 98 99 100

神を稱するもの或り天に在るひの地を在るひの神はくの主なるが如しと雖も我憐れんが唯一の神  
 となち交わるのみ萬物てれより生れられ之を歸す又ひとり土即ちイエスキリストより萬物てれ自由  
 われらも自由なり然らばみな斯る事を知す今に至りて倚心お偶像を願ふ之を偶像亦感し物と意て食する  
 者あり是故お其心弱して汚るなり神と我憐の關係に由り非ず食するも益ることお食せざる  
 も損ることなし然らば爾曹價みて其自由を柔弱者の躰となす勿き人もし知識る所の爾曹の座に坐  
 して食するを見れば柔弱者の心にこれに勸られて偶像亦感し物と食せざらん乎又キリストの代て死たまひ  
 して弱き兄弟爾の知識に因て論じざらん乎此の如く爾曹兄弟も罪を犯し其慈愍心を傷めしむるイエスキ  
 リストに罪を犯すなり是故お若し食物わが兄弟を礙かせば我の兄弟を礙かせざる爲に永久も肉を食はじ  
 我が工お非ず乎われ他人わが使徒お非ずとも爾曹にわが使徒なり蓋しなからるの主に在り我が使徒の職  
 印あれば也我ことを語す者に答ふるに此なりわれら飲食を愛する權なき乎われら他の使徒等およ  
 び主の兄弟とケレいど如く姉妹なる妻を擁する權なき乎惟われどバルナバのみ工を止ることを得ざら  
 ん乎誰か軍に出て己の財を費す者わらんや誰か葡萄園を樹て其果を食する者わらんや誰か羊を牧て其  
 乳を飲する者わらん乎われ人の事のみ循て之を言えや律法も亦かく言に非ずやモーセの律法お敷  
 物を破す牛に口籠を繋べからず鑿されたり神牛の爲に處かり給へる乎又我憐の爲のみのみ之を言た  
 まひし手て我憐の爲に鑿し給へる也り爾許者わが望かりて朝し穀物を破す者其穀物を得の望ありて  
 破り宜なれど也我憐もし爾曹の爲に鑿の物を擄たらば爾曹の肉の物を獲取り大事からん乎他の人も

- チ一〇四
- チ一〇五
- チ一〇六
- チ一〇七
- チ一〇八
- チ一〇九
- チ一一〇
- チ一一一
- チ一一二
- チ一一三
- チ一一四
- チ一一五
- チ一一六
- チ一一七
- チ一一八
- チ一一九
- チ一二〇
- チ一二一
- チ一二二
- チ一二三
- チ一二四
- チ一二五
- チ一二六
- チ一二七
- チ一二八
- チ一二九
- チ一三〇
- チ一三一
- チ一三二
- チ一三三
- チ一三四
- チ一三五
- チ一三六
- チ一三七
- チ一三八
- チ一三九
- チ一四〇
- チ一四一
- チ一四二
- チ一四三
- チ一四四
- チ一四五
- チ一四六
- チ一四七
- チ一四八
- チ一四九
- チ一五〇
- チ一五一
- チ一五二
- チ一五三
- チ一五四
- チ一五五
- チ一五六
- チ一五七
- チ一五八
- チ一五九
- チ一六〇
- チ一六一
- チ一六二
- チ一六三
- チ一六四
- チ一六五
- チ一六六
- チ一六七
- チ一六八
- チ一六九
- チ一七〇
- チ一七一
- チ一七二
- チ一七三
- チ一七四
- チ一七五
- チ一七六
- チ一七七
- チ一七八
- チ一七九
- チ一八〇
- チ一八一
- チ一八二
- チ一八三
- チ一八四
- チ一八五
- チ一八六
- チ一八七
- チ一八八
- チ一八九
- チ一九〇
- チ一九一
- チ一九二
- チ一九三
- チ一九四
- チ一九五
- チ一九六
- チ一九七
- チ一九八
- チ一九九
- チ二〇〇
- チ二〇一
- チ二〇二
- チ二〇三
- チ二〇四
- チ二〇五
- チ二〇六
- チ二〇七
- チ二〇八
- チ二〇九
- チ二一〇
- チ二一一
- チ二一二
- チ二一三
- チ二一四
- チ二一五
- チ二一六
- チ二一七
- チ二一八
- チ二一九
- チ二二〇
- チ二二一
- チ二二二
- チ二二三
- チ二二四
- チ二二五
- チ二二六
- チ二二七
- チ二二八
- チ二二九
- チ二三〇
- チ二三一
- チ二三二
- チ二三三
- チ二三四
- チ二三五
- チ二三六
- チ二三七
- チ二三八
- チ二三九
- チ二四〇
- チ二四一
- チ二四二
- チ二四三
- チ二四四
- チ二四五
- チ二四六
- チ二四七
- チ二四八
- チ二四九
- チ二五〇
- チ二五一
- チ二五二
- チ二五三
- チ二五四
- チ二五五
- チ二五六
- チ二五七
- チ二五八
- チ二五九
- チ二六〇
- チ二六一
- チ二六二
- チ二六三
- チ二六四
- チ二六五
- チ二六六
- チ二六七
- チ二六八
- チ二六九
- チ二七〇
- チ二七一
- チ二七二
- チ二七三
- チ二七四
- チ二七五
- チ二七六
- チ二七七
- チ二七八
- チ二七九
- チ二八〇
- チ二八一
- チ二八二
- チ二八三
- チ二八四
- チ二八五
- チ二八六
- チ二八七
- チ二八八
- チ二八九
- チ二九〇
- チ二九一
- チ二九二
- チ二九三
- チ二九四
- チ二九五
- チ二九六
- チ二九七
- チ二九八
- チ二九九
- チ三〇〇

此權威を爾曹の上には有て我憐をやら然らば我憐の權威を用すキリストの福音に阻礙おさやうに我憐  
 すべての事を記しなげり知ざるが罪事を執る者ハ服の物を食し祭壇に事する者ハ祭壇と共に其煩を脱  
 たり若れ好て之を行バ賞を得ん若れ好ざるも其責任に我れ與れり然らば我が賞何なる耶わき  
 福音を宣傳るに人をして毀なくキリストの福音を得し又福音に在て我有る權を妄に用ざる即ち是なり  
 我衆の人に對て自主の者なれ豈更に多の人を得ん爲に自ら己を衆の人の奴隸とさせりニヤヤ人に  
 ハ我ニヤヤ人の如くおさきり此ニヤヤ人を得ん爲なり又律法の下に在る者に我律法の下に在ざるも律  
 法の下に在る者の如くならず我は律法の下に在る者を得ん爲なり律法おさき者わ我律法おさき者の如く不  
 れり是律法なき者を得ん爲なり然らば我神に向て律法なきお非ず即ちキリストの律法の下に在なり我弱  
 者に我柔弱者の如くならず是柔弱者を得ん爲なり又すべての人に我の衆の人の狀に循へり是れい  
 にもして彼等數人を憐れん爲なりわれ福音の爲お此おてなふ人共お福音を與らん爲なりなんぢ  
 ら知すや劇場に趨る者の皆はしれども褒美を得る唯一人なるを爾曹も得人爲に趨るべし凡て勝を競  
 ぶ者ハ何事をも節へ誣じたり彼等ハ境れ易き見を得ん爲をわ我憐ハ境ざる見を得ん爲に之を  
 行ふなり然らば我が趨るハ定向なきが如きに非ず我が戰ハ空を擊か如きに非ず己の體を撃て之を服せ  
 しむ蓋はかの人を教て自ら棄られんことを恐れ心也

- チ一〇
- チ一一
- チ一二
- チ一三
- チ一四
- チ一五
- チ一六
- チ一七
- チ一八
- チ一九
- チ二〇
- チ二一
- チ二二
- チ二三
- チ二四
- チ二五
- チ二六
- チ二七
- チ二八
- チ二九
- チ三〇
- チ三一
- チ三二
- チ三三
- チ三四
- チ三五
- チ三六
- チ三七
- チ三八
- チ三九
- チ四〇
- チ四一
- チ四二
- チ四三
- チ四四
- チ四五
- チ四六
- チ四七
- チ四八
- チ四九
- チ五〇
- チ五一
- チ五二
- チ五三
- チ五四
- チ五五
- チ五六
- チ五七
- チ五八
- チ五九
- チ六〇
- チ六一
- チ六二
- チ六三
- チ六四
- チ六五
- チ六六
- チ六七
- チ六八
- チ六九
- チ七〇
- チ七一
- チ七二
- チ七三
- チ七四
- チ七五
- チ七六
- チ七七
- チ七八
- チ七九
- チ八〇
- チ八一
- チ八二
- チ八三
- チ八四
- チ八五
- チ八六
- チ八七
- チ八八
- チ八九
- チ九〇
- チ九一
- チ九二
- チ九三
- チ九四
- チ九五
- チ九六
- チ九七
- チ九八
- チ九九
- チ一〇〇
- チ一〇一
- チ一〇二
- チ一〇三
- チ一〇四
- チ一〇五
- チ一〇六
- チ一〇七
- チ一〇八
- チ一〇九
- チ一一〇
- チ一一一
- チ一一二
- チ一一三
- チ一一四
- チ一一五
- チ一一六
- チ一一七
- チ一一八
- チ一一九
- チ一二〇
- チ一二一
- チ一二二
- チ一二三
- チ一二四
- チ一二五
- チ一二六
- チ一二七
- チ一二八
- チ一二九
- チ一三〇
- チ一三一
- チ一三二
- チ一三三
- チ一三四
- チ一三五
- チ一三六
- チ一三七
- チ一三八
- チ一三九
- チ一四〇
- チ一四一
- チ一四二
- チ一四三
- チ一四四
- チ一四五
- チ一四六
- チ一四七
- チ一四八
- チ一四九
- チ一五〇
- チ一五一
- チ一五二
- チ一五三
- チ一五四
- チ一五五
- チ一五六
- チ一五七
- チ一五八
- チ一五九
- チ一六〇
- チ一六一
- チ一六二
- チ一六三
- チ一六四
- チ一六五
- チ一六六
- チ一六七
- チ一六八
- チ一六九
- チ一七〇
- チ一七一
- チ一七二
- チ一七三
- チ一七四
- チ一七五
- チ一七六
- チ一七七
- チ一七八
- チ一七九
- チ一八〇
- チ一八一
- チ一八二
- チ一八三
- チ一八四
- チ一八五
- チ一八六
- チ一八七
- チ一八八
- チ一八九
- チ一九〇
- チ一九一
- チ一九二
- チ一九三
- チ一九四
- チ一九五
- チ一九六
- チ一九七
- チ一九八
- チ一九九
- チ二〇〇
- チ二〇一
- チ二〇二
- チ二〇三
- チ二〇四
- チ二〇五
- チ二〇六
- チ二〇七
- チ二〇八
- チ二〇九
- チ二一〇
- チ二一一
- チ二一二
- チ二一三
- チ二一四
- チ二一五
- チ二一六
- チ二一七
- チ二一八
- チ二一九
- チ二二〇
- チ二二一
- チ二二二
- チ二二三
- チ二二四
- チ二二五
- チ二二六
- チ二二七
- チ二二八
- チ二二九
- チ二三〇
- チ二三一
- チ二三二
- チ二三三
- チ二三四
- チ二三五
- チ二三六
- チ二三七
- チ二三八
- チ二三九
- チ二四〇
- チ二四一
- チ二四二
- チ二四三
- チ二四四
- チ二四五
- チ二四六
- チ二四七
- チ二四八
- チ二四九
- チ二五〇
- チ二五一
- チ二五二
- チ二五三
- チ二五四
- チ二五五
- チ二五六
- チ二五七
- チ二五八
- チ二五九
- チ二六〇
- チ二六一
- チ二六二
- チ二六三
- チ二六四
- チ二六五
- チ二六六
- チ二六七
- チ二六八
- チ二六九
- チ二七〇
- チ二七一
- チ二七二
- チ二七三
- チ二七四
- チ二七五
- チ二七六
- チ二七七
- チ二七八
- チ二七九
- チ二八〇
- チ二八一
- チ二八二
- チ二八三
- チ二八四
- チ二八五
- チ二八六
- チ二八七
- チ二八八
- チ二八九
- チ二九〇
- チ二九一
- チ二九二
- チ二九三
- チ二九四
- チ二九五
- チ二九六
- チ二九七
- チ二九八
- チ二九九
- チ三〇〇

